



ドリラス

富山県

No.93 2019年10月

# 中央植物園だより



第21回私の植物写真展入選作品「明日に向かって」 撮影／福田 修策さん

## アリウム・シクルム（ネギ科）

トルコ、ブルガリア原産のネギ科の球根植物で、6月ごろピンク色の花を茎から吊り下げたようにつけます。

## 「クリスマスフェア」開催のお知らせ

毎年恒例の「クリスマスフェア」を12月6日（金）～12月8日（日）の3日間開催します。富山古楽協会や鷺坂小学校などによるコンサート、クリスマス飾りの有料体験コーナーやクリスマスオーナメントの販売などを予定しております。多くの方の参加をお待ちしています。



昨年のクリスマス装飾のアップルツリー

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

# イギリス植物紀行 — オックスフォード庭園整備に向けて

## 第二回 オックスフォード大学植物園と樹木園

栽培展示課 高橋 一臣

オックスフォード大学植物園は1621年に設立された、イギリスで最も古い植物園です。ヨーロッパの古い植物園は薬用植物園が前身である例が多いのですが、この植物園も当初はフィジック・ガーデンと呼ばれる薬草園だったそうです。

オックスフォード大学のモードリン・カレッジの向かいに位置し、ダンビー・ゲートと呼ばれる1631年に完成した門や古い壁に囲まれた園内は、落ち着いた雰囲気でした(写真1)。セイヨウイチイやナナカマド属のソルブス・ドメスティカなどの古木が、長い歴史を感じさせます。一方で、タクソノミック・ベッドと呼ばれる分類花壇では、従来の分類体系ではなく、「APG体系」というDNAの系統解析にもとづく最新の分類体系に従って植物が配置されていました。「新しいぶどう酒は新しい革袋に」といいますが、「17世紀の門をくぐると最新の分類体系に出くわす」というのは、かえって面白いと感じました。

もちろん、今も薬草の区画があって、皮膚の薬や胃腸の薬など、用途別に薬用植物が配置されていました。ひき抜くと叫び声をあげるといふ伝説の薬用植物マンドラゴラも展示されており、「ハリー・ポッター」に登場するこの植物が実在することを知った中国からの観光客は、大変驚くのだとか。また、壁に沿って宿根草を使ったボーダーガーデンもあり、夏には美しく花が咲きそります(写真2)。

ハーコート・アーボレータムと呼ばれる樹木園はオックスフォードの郊外にあり、中に入ると北米産のセコイアやセコイアデンドロンを含む巨大な針葉樹のコレクションがまず目を引きます。林床にはたくさんのシャクナゲ類が植えられており、花の時期は見事であろうと思われました(写真3)。薪炭林として利用されている落葉樹林は、案内してくれたベンが「イングリッシュ・サトヤマ」と言っていたように、林床にササ類がないことを除けば日本の里山の雑木林を連想させる景観でした。

絶滅危惧種にはオレンジ色の解説版がつけられ、同程度の危機にある動物のイラストを添えることで、絶滅の危機のランクが一目でわかるよう工夫されています。最近、日本から導入されたカバノキ属の絶滅危惧種チブミネバリも植栽されていましたが、埼玉県出身の私も実物を見たことがないこの樹木がイギリスにあるのは驚きでした。自国のみならず海外の希少植物の生息域外保全にも積極的に取り組む姿勢には頭が下がります。無花粉スギを含む、富山県から種子で導入した植物の苗も順調に育っていて(写真4)、「立山の植物」の区画を新たに整備する計画があるそうです。



写真1 落ち着いた雰囲気の園内。



写真2 7月のボーダーガーデン(ロバート・テイ特氏撮影)。



写真3 針葉樹とシャクナゲのコレクション。



写真4 人の背丈近くまで育った優良無花粉スギ「立山 森の輝き」。右は樹木園責任者のベン・ジョーンズ氏。左は筆者。

# イベント開催レポート

## 夜間開園「ゲッカビジン観賞」

今年のゲッカビジン観賞は7月8日（月）・9日（火）の2日間開催しました。開花するかどうかは当日にわかるので、毎年広報に苦労していますが、一部のテレビ・ラジオで紹介していただき、聞きつけた方が多数来園されました。

花の数は2日間で約120輪で、昨年（320輪）と比べると少なかったのですが、8日にはゲッカビジンよりも花が大きく、強い芳香がある「イエローピタヤ」（黄色いドラゴンフルーツ。果実は食用）の花がちょうど開花したので初めて展示しました。また、ゲッカビジンよりも花が小さい「十三夜美人」（ゲッカビジンと宵待孔雀の交配種）もちょうど開花したので展示しました。



写真上) イエローピタヤの花、写真下) ゲッカビジンよりも花が小さい十三夜美人

## 富山の植物◎『フジバカマ』

企画情報課 大原 隆明

フジバカマは秋の七草の一つとして知られる植物で、中国、朝鮮半島、日本に分布しています。日本では本州から九州の各地にみられますが、主な生育地である河原の環境変化などにより減少し、2019年版の環境省レッドリストでは準絶滅危惧種としてリストアップされています。富山県のレッドデータブックでも2002年版では危急種とされていましたが、その後の調査で生育地、個体数ともに多く残っていることが確認され、2012年版のレッドデータブックではランク外とされました。幸いにも、県内では現在でも河川の周辺などで見かける機会も多く、市街地周辺の用水沿いや湿った路傍などでも思いがけず出会うことがあります（写真2）。おそらく、富山県は全国有数のフジバカマ生育地なのではないでしょうか。

なお、フジバカマは観賞用に栽培もされますが、自生品の茎上部の葉は分裂しないか浅く3裂する程度（写真3A）なのに対して、栽培品の葉は基部から深く3裂するなど（写真3B）、かなり異なった印象を受けます。栽培品のタイプは中国南部に多く見られるもので、コバノフジバカマの名で別種とする見解もありますが、その扱いには諸説があります。いずれにしても、自生品と栽培品は明らかに異なる系統のものであり、自生地の保全を行う上では混同しないよう注意が必要です。



写真1. 自生品のフジバカマ  
（富山市北部：2010年10月16日）



写真2. 市街地の自生地  
（高岡市の国道沿い：2009年9月19日）

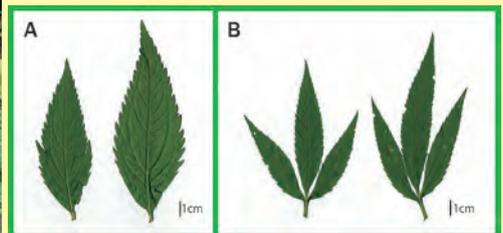


写真3. フジバカマの茎上部の葉の比較。  
A：自生品（射水市産）B：栽培品（富山市）

# 植物だより：10年ぶりにナンバンサイカチが開花

熱帯雨林植物室に植栽されているナンバンサイカチに環状剥皮（樹皮を1周剥ぎ取る）を今年の春に施したところ、7月上旬に10年ぶりに開花しました。環状剥皮を行うことで、一般に開花が早まったり着果を促進する効果があり、果樹栽培などでよく行われています。

ナンバンサイカチは熱帯アジア原産のマメ科の落葉樹で、タイの国花です。花は鮮やかな黄色で芳香があり、多数の花がフジの花のように吊り下がって咲きます。満開時の木の下では、黄金のシャワーを浴びているようなところから、ゴールデンシャワーまたはゴールデンシャワーツリーとも呼ばれています。



ナンバンサイカチの花

## 催し物のご案内

### ■企画展示

会場：サンライトホール（入園料が必要です。）

### 特別展 二口善雄植物画展

—植物画界のバイオニアの画業を振り返る—

9月13日（金）～10月14日（月・祝）

### 第3回サボテン・多肉植物展

10月18日（金）～10月20日（日）

### 私の植物写真展

10月25日（金）～11月13日（水）

### 秋の盆栽展

11月15日（金）～11月17日（日）

### 第13回秋のラン展

11月22日（金）～11月24日（日）

### クリスマスフェア

12月6日（金）～12月8日（日）

### 花と緑のコンクール入賞作品展

12月13日（金）～27日（金）

### ■講座・講習会

#### 栽培講習会

#### 「ランの栽培と管理」

11月23日（土）・24日（日）

両日とも14:00～15:30

会場：ドリアスホール（入園料が必要です）

#### 植物園でバードウォッチング

12月8日（日） 9:00～11:30

池の水鳥を観察（入園料が必要です）

### ■ボタニックガーデニングクラブ

（高校生以上対象、定員に達し次第締切）

#### 多肉植物で楽しい寄せ植えづくり

◎要申込

10月19日（土）・20日（日）

会場：ドリアスホール（入園料が必要です）

両日とも13:30～15:30

定員：各日20名

参加費：1,000円

#### 正月飾りを作ろう

◎要申込

12月22日（日） 9:30～11:00

会場：ドリアスホール（入園料が必要です）

定員：20名

参加費：500円

### ■月例行事

入園料が必要です。

#### 植物ガイド

—ボランティアと歩く植物園—

第1,2,4日曜日 13:30～14:00

集合場所/サンライトホール

—園長と歩く植物園—

第3日曜日 13:30～14:30

集合場所/サンライトホール

#### 緑のコンサート

シンセサイザー演奏・滝沢卓

11月2日（土） 14:00～15:00

◎要申込

事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から前日までに「電話」でお申込ください。



## 富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00（入園は16:30まで）

（11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで）

休園日 毎週木曜日

（4月第1、2木曜日とGW、お盆、祝日の場合は開園）

年未年始（12月28日～1月4日）

入園料	大人（一般および大学生）	500円
	団体料金（20名以上）	400円
	高校生以下ならびに70歳以上通年無料	
冬期入園料（12月～2月）	大人（一般および大学生）	300円
	団体料金（20名以上）	240円
	高校生以下ならびに70歳以上通年無料	
年間バスポート（購入日より1年間有効）		2,100円

交通案内 JR富山駅から、富山地铁バス「ファボーレ」経由萩の島循環または「ファボーレ」経由速星行き（休日のみ）に乗りし「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分

## 富山県中央植物園だより No.93

編集・発行/富山県中央植物園（指定管理者：公益財団法人 花と緑の銀行）

〒939-2713 富山市婦中町上轡田42 TEL 076-466-4187 <https://www.bgtym.org/>

令和元年9月25日発行 印刷/中村印刷工業株式会社